

## 「奈良の木」に関するアンケート調査のポイント ～令和4年度「県民 Web アンケート」から～

奈良県は吉野材をはじめとして全国有数の優良木材の生産地として知られていますが、長引く林業の不振等により林業就業者が減少し、手入れが行き届かず放置される森林の増加が目立っています。木を利用することは、新しい苗木を育て間伐を繰り返すといった森林整備の好循環を生み出すことで健全な森林を育てます。また、地球温暖化対策や土砂災害の防止など、森林が持つ多面的機能が発揮されることから環境保全にもつながります。今回は、「奈良の木」の利用促進に向けた取り組みの参考とするため、奈良県が県民に対して実施したアンケート結果を紹介します。

### 1. 調査の概要

|       |                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的    | 奈良県では手入れが行き届かず放置される森林が増える状況にある。木の利用は森林整備に貢献するだけでなく、環境保全につながることから、県民の木に対する認知度や意識を把握することで「奈良の木」の利用促進に向けた取り組みの参考とするため。 |
| 実施期間  | 令和4年10月5日～令和4年10月11日                                                                                                |
| 対象    | 県民 web アンケート会員への応募者の中から、奈良県内在住の満18歳以上で電子メールアドレスを持ち、日本語で電子メールの送受信を行うことができる者として登録された274名。                             |
| 方式    | インターネットによるアンケート調査                                                                                                   |
| 有効回答数 | 242件（有効回答率：88.3%）                                                                                                   |
| 事務局   | 奈良県 水循環・森林・景観環境部 奈良の木ブランド課                                                                                          |

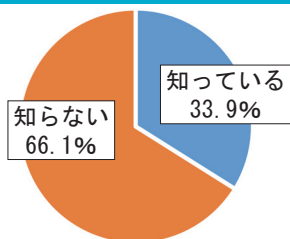
### 2. 調査の結果（一部抜粋）

#### （1）「奈良の木」の認知度

「奈良の木」について知っているかどうか聞いたところ、「知っている」と答えた方は33.9%、「知らない」と答えた方は66.1%（図表1）。

※奈良県では、奈良県産の木材のことを「奈良の木」としてPRしています。

図表1：「奈良の木」の認知度



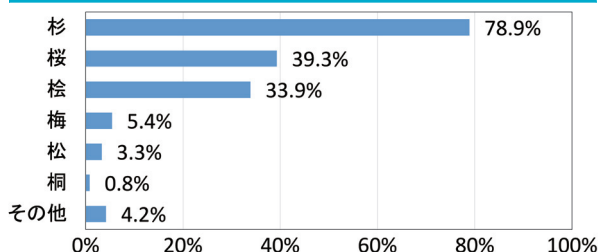
出典：「令和4年度『県民 Web アンケート』第7回 奈良の木についてのアンケート調査」（奈良県）を当研究所にて一部加工（以下同じ）

#### （2）「奈良の木」の代表的な種類のイメージ

「奈良の木」と聞いて何の木をイメージするか聞いたところ（2つまで回答）、「杉」が78.9%と最も高くなっており、以下「桜」が39.3%、「桧」が33.9%、「梅」が5.4%、「松」が3.3%、「桐」

が0.8%の順となっている（図表2）。

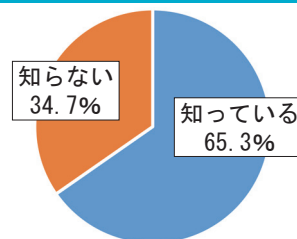
図表2：「奈良の木」のイメージ（2つまで回答）



#### （3）自然環境保全への理解

「奈良の木」を使う（伐る）ことは自然破壊ではなく、むしろ環境を守ることにつながっていることを知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた方は65.3%、「知らない」と答えた方は34.7%（図表3）。

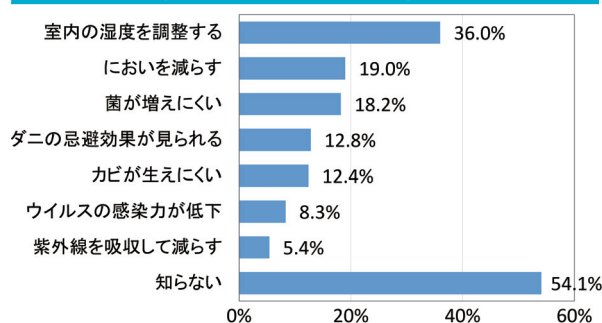
図表3：自然環境保全への理解



#### （4）「奈良の木」の健康効果

「奈良の木」の健康効果について聞いたところ（複数回答）、「知らない」が54.1%と最も高くなっており、以下「室内の湿度を調整する」が36.0%、「においを減らす」が19.0%、「菌が増えにくい」が18.2%、「ダニの忌避効果が見られる」12.8%、「カビが生えにくい」12.4%、「ウイルスの感染力が低下」8.3%、「紫外線を吸収して減らす」5.4%の順となっている（図表4）。

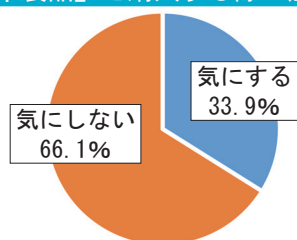
図表4：「奈良の木」の健康効果（複数回答）



#### （5）「木製品」を購入する際の産地について

「木製品」を購入する際、木の産地を気にするか聞いたところ「気にする」と答えた方は33.9%、「気にしない」と答えた方は66.1%（図表5）。

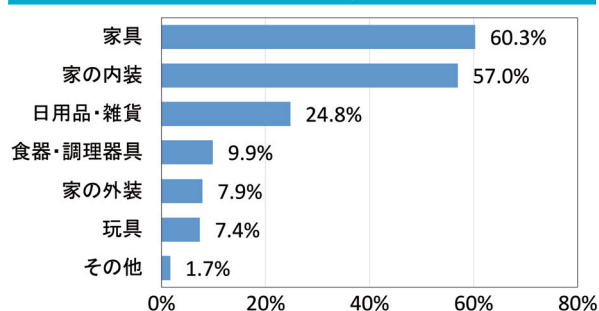
図表5：「木製品」を購入する際の産地について



#### （6）自宅の中で、「木」を使いたいところ

自宅の中で一番「木」を使いたいところを聞いたところ（2つまで回答）、「家具」が60.3%と最も高くなっており、以下「家の内装」が57.0%、「日用品や雑貨」が24.8%、「食器・調理器具」が9.9%、「家の外装」が7.9%、「玩具」が7.4%の順となっている（図表6）。

図表6：木を使いたいところ（自宅内・2つまで回答）

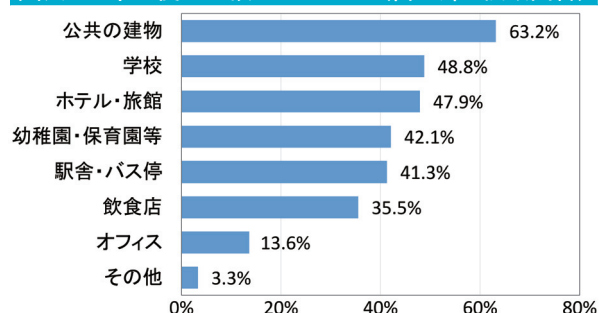


#### （7）自宅外で、「木」を使って欲しいところ

自宅の外で一番「木」を使って欲しいところを聞いたところ（複数回答）、「公共の建物」が63.2%と最も高くなっており、以下「学校」が48.8%、「ホテル・旅館」が47.9%、「幼稚園・保育

園等」が42.1%、「駅舎・バス停」が41.3%、「飲食店」が35.5%、「オフィス」が13.6%の順となっている。その他として、「奈良の木をたくさん使った街並みがあれば見てみたい」との自由意見がみられた。（図表7）。

図表7：木を使って欲しいところ（自宅外・複数回答）



アンケート結果によると、奈良県の代表的な木として「杉」、「桜」、「桧」が上位に選ばれる理由は、主に高級材として全国各地から買い手がつく杉や桧の高い知名度や吉野山をはじめ桜の名所が県内に多いことなどが考えられるが、県民の「奈良の木」の認知度は全体の約3分に1にとどまっており、また木の持つ具体的な性能や特徴などの理解も進んでいないことがうかがえる。

自宅の中で木を使いたいところでは「家の内装」や「家具」などの高価な製品に木の利用を希望する人の割合が高い。一方で「日用品・雑貨」、「食器・調理器具」などの小物に木を使いたいと希望する人の割合は低く、木の持つ様々な健康効果についても認知度も低くなっている。

アンケート結果からは、「奈良の木」の利用拡大に向けて、日常生活で身近な日用品や食器など木製品について見た目の美しさや温かみなどの魅力を提案すること、健康意識の高まりを背景に防カビ・防ダニなどの木が持つ健康効果を伝えることなどが潜在的なニーズ発掘に有効であることが示唆される。

「奈良の木」をより一層アピールする取組みが、今後も求められるだろう。

（井上主税）